

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

大和重工株式会社 吉田工場

(2) 事業所の所在地

広島県 安芸高田市 吉田町 川本763

(3) 業種

2251 銑鉄鋳物製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25（2013）年度を基準年度とし、令和3（2021）から令和12（2030）年度までの10年間とする。

3 計画の基本的な方向

基準年度に対し、原単位で、令和12年度に10%削減

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和3（2021）年度
二酸化炭素	5,310	5,008

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和3（2021）年度
メタン	2.2	2.2
一酸化二窒素	5.7	4.7
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)	削減目標		目標年度 (令和 () 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO2				0
非エネルギー起源CO2				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 生産量(t)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25 (2013) 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和12 (2030) 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	5,310	2,935	1.81	10	4,779	2,935	1.63
非エネルギー起源CO2							
メタン	2.2	2,935	0.001	0.0	2.0	2,935	0.001
一酸化二窒素	5.7	2,935	0.002	0.0	5.1	2,935	0.002
その他 温室効果ガス							
総排出量	5,318	2,935	1.81	9.9	4,786	2,935	1.63
エネルギー消費原単位 (原油換算 k 1)	-	-	1.19	10.1	-	-	1.07
目標設定の考え方	基準年度に対し、原単位で、令和12年度に10%削減						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	燃料使用量の削減	燃料の使用量を10%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 操業方法の改善 ・ アイドリングストップ等エコドライブの実践
2	電気使用量の削減	電気の使用量を10%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷暖房温度の適正管理 ・ 省エネ型電気機器への更新 ・ 休憩時間の消灯の徹底 ・ 配電用変圧器の高効率変圧器への更新 ・ 真空ポンプインバータ化 ・ 高効率蛍光灯具への更新 ・ 用水使用量の節約
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

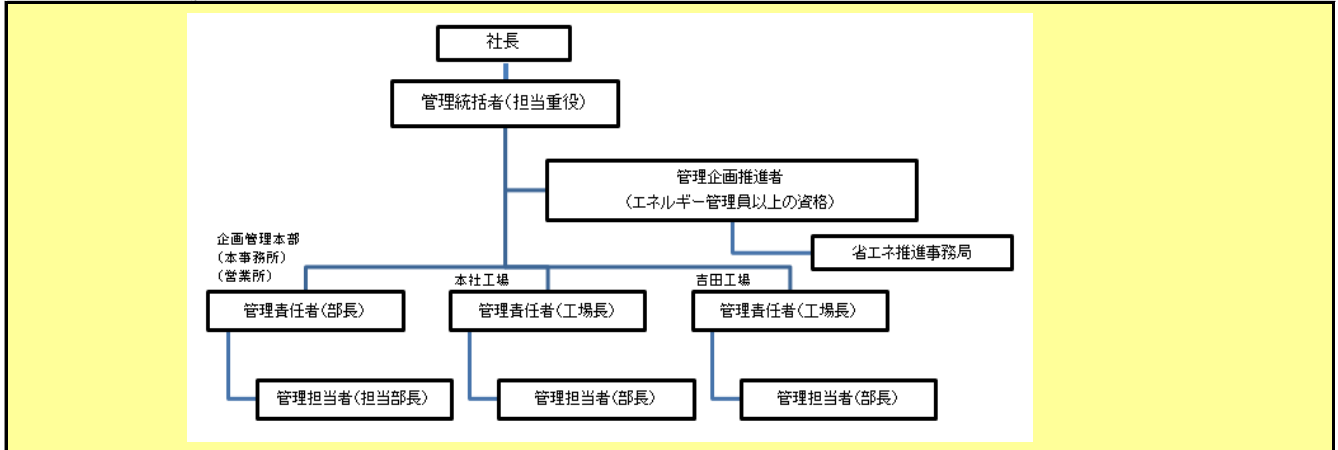
○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

- ・企画管理本部を中心に計画の立案・実施を行う
- ・全社での省エネ委員会の開催(2回/年)による進捗確認

(3) 計画書等の公表

- ・事業所内で関係者へ回覧し、いつでも閲覧出来る様にする